

(9) 四 国



四国地域では、景気は緩やかに回復している。

- ・ 鉱工業生産は緩やかに増加している。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 雇用情勢は改善傾向にある。

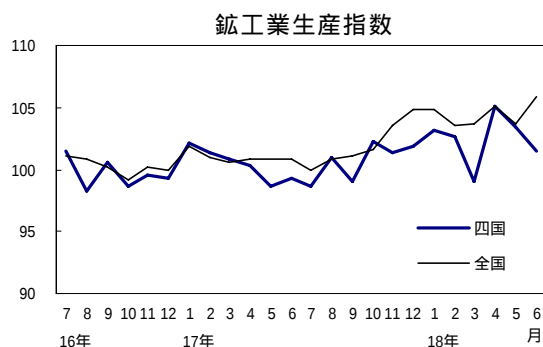
前回調査からの主要変更点

	前回（平成 18 年 5 月）	今回（平成 18 年 8 月）	
住宅建設	減少	増加	↑

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は緩やかに増加している。

パルプ・紙は、新聞巻取紙や値上げ前の駆け込み需要が発生した衛生用紙等が増加したため、増加している。食料品・たばこは、冷凍食品や肉製品等が増加したため、全体では増加している。電気機械は、海外向け需要が一服したこと等により蓄電池が減少したものの、開閉式制御装置や、液晶画面向け需要が国内外共におう盛な光電変換素子等が増加したため、全体では増加している。化学は、中国向け需要が引き続き好調なカプロラクタム（ナイロンなどの原料）等が増加したものの、製造工場の定期検査・修理が重なったことから、BTX（ベンゼン、トルエン、キシレン）やアリニン（塗料、ウレタン等の原料）が減少したため、全体では減少している。一般機械は、欧米を中心とする海外向け需要がおう盛な個装・内装機械や装輪式トラクターなどが好調であったことから、増加している。



(備考) 1. 12年=100、季節調整値。
2. 平成18年6月の四国は速報値。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		1～3 月期	4～6 月期	4～6 月期	4～6 月期
パルプ・紙	13.3	2.3	0.5	1.2	▲0.7
食料品・たばこ	13.3	▲1.7	2.2	1.9	8.2
電気機械	12.8	▲3.5	8.6	▲1.0	37.3
化学	12.7	2.2	▲7.3	▲6.8	▲3.1
一般機械	11.3	4.2	6.9	8.9	20.8
鉱工業	100.0	▲0.2	1.7	0.6	1.7

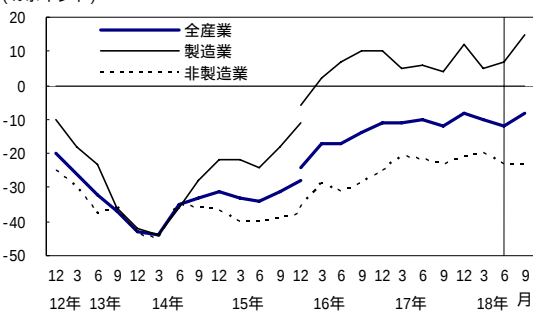
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

2. 4～6月期は速報値。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が拡大し、資金繰り判断は「苦しい」超幅が縮小している。

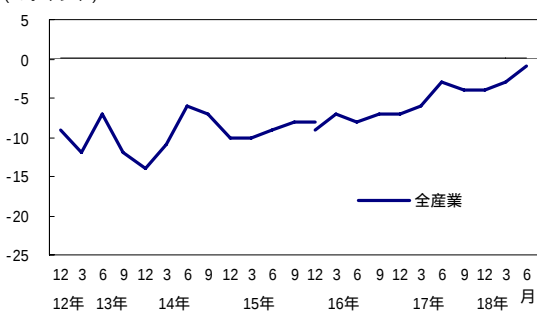
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査

企業短期経済観測 [業況判断]



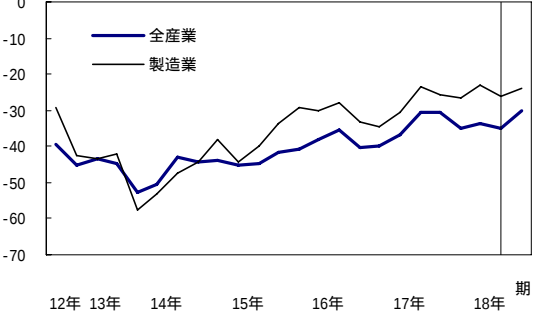
(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。18年9月は予測。
15年12月は新・旧基準を併記。

企業短期経済観測 [資金繰り判断]



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
15年12月は新・旧基準を併記。

中小企業景況調査 [業況判断]



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。18年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査 (7月) [企業動向関連 (現状)]

「ユーザーは工事量の裏付けがあることから新車購入に積極的であり、相変わらず引き合いは活発な状況が続いている (一般機械器具製造業) 」など「変わらない」とする回答が多くみられた。

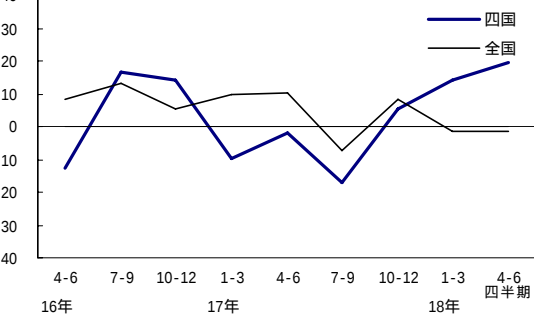
(3) 18年度の設備投資は前年度を上回る計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資 (6月調査)]

	(前年度比、 %)	
	17年度実績	18年度計画
全産業	7.8[7.8]	4.3
製造業	14.4[16.1]	16.7
非製造業	2.4[1.1]	▲6.9

(備考)[]は前回 (3月) 調査結果。

建築着工床面積
(非居住用、前年同期比)



2. 需要の動向

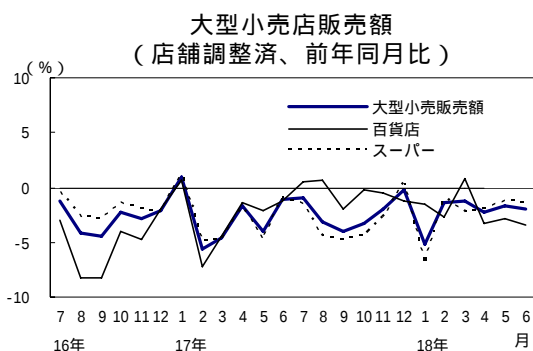
(1) 個人消費は持ち直しの動きがみられる。

大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、4月は、美術品・宝飾品等に動きが見られたものの、気温が低めに推移したこと
から季節商品の動きが鈍く、衣料品や婦人靴、帽子等の身の回り品を中心に落ち込みが見ら
れ、2か月ぶりに前年を下回った。5月は、絵画・工芸品等の美術品が好調であったほか、
海外ブランド等の身の回り品に動きが見られたものの、日照不足等により夏物商品の動きが
鈍く、衣料品が低調であったことから、前年を下回った。6月は、物産展等の催事が好調で
あったことから、飲食料品に伸びが見られたものの、雨の日が多く入店客数が減少したこと
等から、衣料品、身の回り品の動きが鈍く、3か月連続で前年を下回った。なお、日本百貨
店協会によると、四国地区の7月の売上高は、前年同月比で1.8%減となっている。
スーパーは、天候不順により主力の衣料品や飲食料品が低調であったことや、昨年の湯水対
策商品特需の反動から家庭用品が落ち込んだこと等により、前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(7月)[家計動向関連(現状)]

「前半は梅雨明けが遅かったため、客足も鈍かったが、中旬ごろから暑さも本格化し、エア
コンの販売は前年並みまで回復してきた。それに対して、冷蔵庫の販売は思うほど伸びてい
ない(家電量販店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

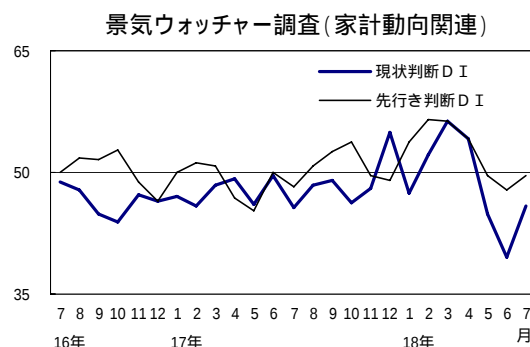
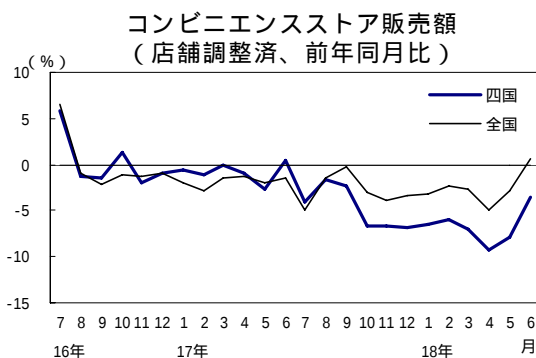


(前年同期比、%)

	17年7-9月	10-12月	18年1-3月	4-6月
大型小売店	▲2.6	▲1.7	▲2.8	▲2.0
百貨店	▲0.2	▲0.7	▲1.0	▲3.2
スーパー	▲3.6	▲2.1	▲3.6	▲1.5
コンビニ	▲2.7	▲6.7	▲6.5	▲6.9
景気ウォッチャー	47.7	49.8	52.0	46.2

(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。

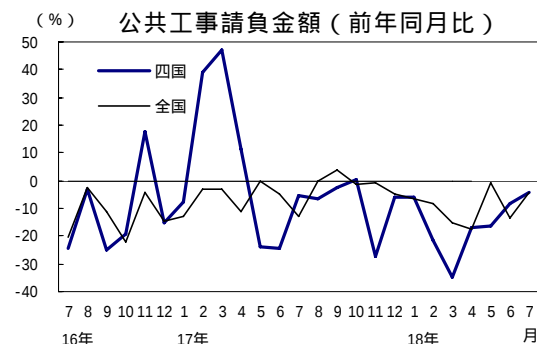
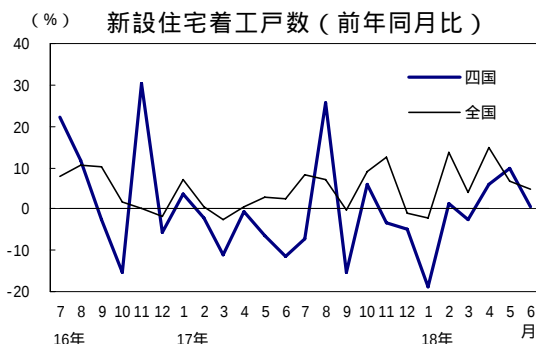
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断DIの
3か月平均。



(2) 住宅建設は増加している。

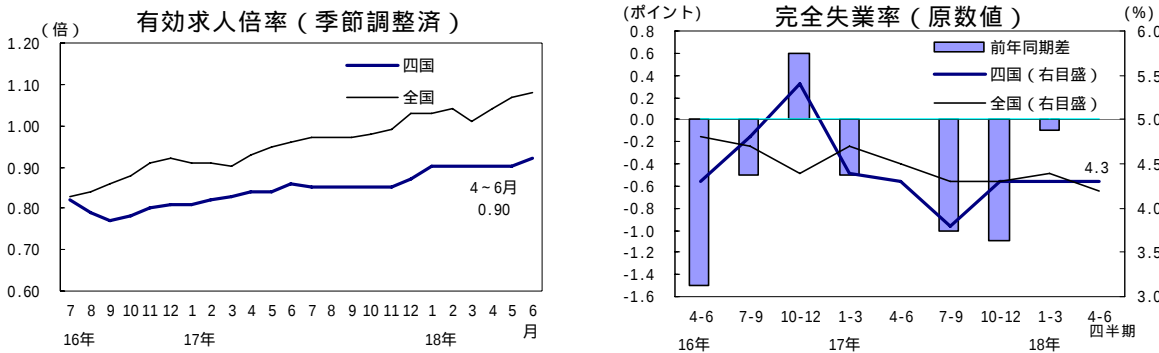
貸家が前年を下回ったものの、分譲、持家が上回ったことから、全体では増加している。

(3) 公共投資は18年度累計でみると前年度を下回っている。



3. 雇用情勢等

- (1) 雇用情勢は改善傾向にある。
有効求人倍率及び完全失業率
有効求人倍率はおおむね横ばいとなっている。完全失業率は前年同期と同水準となっている。



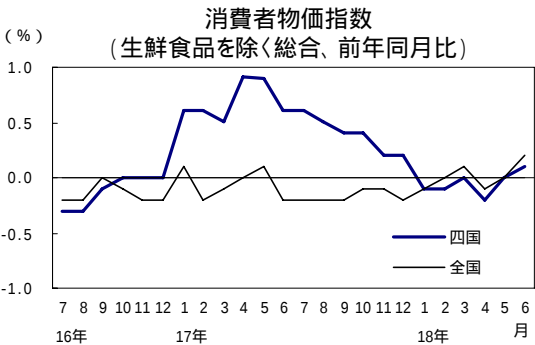
景気ウォッチャー調査 (7月) [雇用関連 (現状)]
「求人数の動き、数ともに、業種によってばらつきがある (求人情報誌製作会社)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

- (2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに増加している。
7月に件数が大幅に増加している。

- (3) 消費者物価指数はおおむね横ばいとなっている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	17年7-9月	10-12月	18年1-3月	4-6月	18年7月
倒産件数	77	65	75	89	45
(前年比)	▲16.3	▲30.9	▲14.8	11.3	114.3
負債総額	315	107	221	256	186
(前年比)	131.4	▲44.8	▲31.4	32.1	0.3



- 景気ウォッチャー調査 (7月) [合計 (特徴的な判断理由)]
- <現状>
- 来客数や客との会話から特に景気が悪くなっているような印象は受けない。ガソリン価格の上昇についての話題も思ったほど出てこない (その他専門店 [CD])
- <先行き>
- ガソリンが高騰し、予約が低調である (観光名所)

